

(様式3号)

学 位 論 文 の 要 旨

氏名 稲村 彰紀

〔題名〕

Topographical features of the vagal nerve at the cervical level in an aging population evaluated by ultrasound

(頸椎レベルでの迷走神経局在と加齢の関係：超音波検査による解明)

〔要旨〕

迷走神経刺激術(VNS)の際、頸部の迷走神経(VN)は総頸動脈(CCA)の背側か腹側で同定できる。我々は、患者年齢と頸部超音波検査を用いて測定したVNの深さとの相関を分析し、年齢からVNの深さが同定可能かどうか評価した。同時に、術前の頸部超音波によるVNの評価はVNSに有用であるかどうか検討した。

山口大学医学部附属病院脳神経外科で頸部超音波を行った443人の患者(71.8 ± 10.6歳; 男性332人、女性121人)を対象とした。VN、CCA、内頸静脈(JV)を甲状軟骨の高さで同定し、CCAとJVとの中心を結んだ線Cよりも表層にVNがあるものを表層型、深層にあるものを深層型と分類し、年齢の差を解析した。また、線CからVNまでの距離と年齢との相関を解析した。

VNは443例全てでCCAとJVとの間に同定でき、全てのVNが線Cを基準として深層に6mmから表層に7mmの範囲に存在していた。深層型の患者は389人(87.8%)、表層型の患者は54人(12.2%)であった。それぞれの平均年齢は深層型が72.3 ± 9.9歳、浅層型が68.3 ± 14.1歳であり、深層型の方が有意に高齢であった($p = 0.0095$)。しかしながら線CからVNとの距離と年齢との相関係数は0.246($p < 0.001$)に留まった。

深層型の患者は表層型の患者よりも高齢であったが、線CからVNへの距離と年齢との層悪寒は弱く、年齢からVNの深さを推定することは困難であると思われた。術前の頸部超音波検査では全例でVNが同定できており、超音波検査はVNSの術前評価として有用であると考えられた。

作成要領

1. 要旨は、800字以内で、1枚でまとめること。
2. 題名は、和訳を括弧書きで記載すること。

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1505 号	氏 名	稲村 彰紀
論文審査担当者	主査教授	矢野 雅文	
	副査教授	篠田 晃	
	副査教授	鈴木 倫保	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
Topographical features of the vagal nerve at the cervical level in an aging population evaluated by ultrasound (頸椎レベルでの迷走神経局在と加齢の関係：超音波検査による解明)			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
Topographical features of the vagal nerve at the cervical level in an aging population evaluated by ultrasound (頸椎レベルでの迷走神経局在と加齢の関係：超音波検査による解明)			
掲載雑誌名 Interdisciplinary Neurosurgery			
第 9 巻 P. 64~67 (2017 年 9 月 掲載)			
(論文審査の要旨)			
<p>迷走神経刺激術 (VNS) の際、頸部の迷走神経 (VN) は総頸動脈 (CCA) の背側か腹側で同定できる。我々は、患者年齢と頸部超音波検査を用いて測定した VN の深さととの相関を分析し、年齢から VN の深さが同定可能かどうか評価した。同時に、術前の頸部超音波による VN の評価は VNS に有用であるかどうか検討した。</p> <p>山口大学医学部附属病院脳神経外科で頸部超音波を行った 443 人の患者 (71.8 ± 10.6 歳; 男性 332 人、女性 121 人) を対象とした。VN、CCA、内頸静脈 (JV) を甲状軟骨の高さで同定し、CCA と JV との中心を結んだ線 C よりも表層に VN があるものを表層型、深層にあるものを深層型と分類し、年齢の差を解析した。また、線 C から VN までの距離と年齢との相関を解析した。</p> <p>VN は 443 例全てで CCA と JV との間に同定でき、全ての VN が線 C を基準として深層に 6mm から表層に 7mm の範囲に存在していた。深層型の患者は 389 人 (87.8%)、表層型の患者は 54 人 (12.2%) であった。それぞれの平均年齢は深層型が 72.3 ± 9.9 歳、浅層型が 68.3 ± 14.1 歳であり、深層型の方が有意に高齢であった ($p = 0.0095$)。しかしながら線 C から VN との距離と年齢との相関係数は 0.246 ($p < 0.001$) に留まった。</p> <p>深層型の患者は表層型の患者よりも高齢であったが、線 C から VN への距離と年齢との相関は弱く、年齢から VN の深さを推定することは困難であると思われた。術前の頸部超音波検査では全例で VN が同定できており、超音波検査は VNS の術前評価として有用であると考えられた。</p> <p>本研究は頸椎レベルの迷走神経の走行について、超音波検査を用いて検討した論文である。よって、学位論文として価値あるものであると認めた。</p>			
備考 審査の要旨は 800 字以内とすること。			